

今から30年前の1986年12月10日、財団法人鉄道総合技術研究所が誕生しました。当時の鉄道環境と今とを比べてみましょう。当時の東海道新幹線ひかり号の最高時速は220km/hで、東京-新大阪間の所要時間が2時間52分でした。現在はのぞみ号の最高時速が285km/h、所要時間が2時間22分なので、30分短縮しました。整備新幹線の建設により新幹線の路線は増え、リニア中央新幹線の工事も始まりました。ICカード乗車券も普及し、駅のエスカレーターやエレベーター、ホームドアの設置も進んできました。そのような今花開いている鉄道のサービスや環境の背景には、長いもので何十年も前からの構想や研究開発に源流がある場合があり、また実現までに多くのステッ

プを踏んでいます。

鉄道は社会の中に溶け込み、多くの方々によって支えられ、また多くの方々に影響を与える存在です。鉄道総研はこれからも、何年、何十年か先のより良い鉄道環境の実現に貢献し、ひいてはご利用いただく方々のより良い暮らしにお役に立てるよう、研究開発を進めてまいります。

さて次号は「列車制御の新時代」です。近年、導入が進んでいる無線式列車制御システムの技術をベースとして、更にICTを活用し、従来の保安制御の範囲を超える、新しい列車制御に関する研究成果をご紹介します。どうぞご期待ください。(S.S.)